

公共施設のあり方検討特別委員会審査概要報告書

委員長 本田 利麻

- I 開催年月日 令和 8 年 6 月 8 日（月）
II 会議時間 午前 10 時 00 分～午前 11 時 56 分
III 出席委員等〔出席委員〕◎本田 利麻 ○福井 直樹 水越 進一
山野井拓也 高木 敬介 新開 広恵
熊木 義城 梅島 清香 高岡 宏和
酒井 善広 上田 武 金森 一郎
（◎…委員長 ○…副委員長）
〔議長〕 曾田 康司
〔副議長〕 中村 清志
〔参考人〕 喜多 進 藤田 晴久 山崎美恵子
〔委員外議員〕 塚本 政彦 田中 勝文
〔事務局職員〕 松本 武司 竹田 裕子 二口 崇
〔傍聴者〕 3 名

IV 審査の概要

1 参考人の意見聴取について

〈 参考人から、次のとおり発言があった。発言内容は □ で表示。 〉

【高岡市教育将来構想検討会議における竹平記念体育館サブアリーナ建設の検討経緯について】

- スポーツ関係者としては、以前から、スポーツコアに早急に新総合体育館を建設してほしいと要望してきた。平成 29 年度に建設計画が入札不調を経て頓挫し、前市長にも早急な整備を要望してきたが、財政上の都合で難しいとのことだった。このため、竹平記念体育館が耐用年数を迎える頃に、サブアリーナが併設された新総合体育館を建設することとし、段階的な対応として竹平記念体育館サブアリーナを建設することとなった。ベストではないが、ベターの方針ということで了解してもらえないかという話があり、スポーツ関係者で話し合い、その方向で了承したというのが経緯である。
- 令和 5 年 10 月 31 日に開催された第 1 回高岡市教育将来構想検討会議から、6 年 9 月 21 日の第 5 回高岡市教育将来構想検討会議まで、約 1 年弱の期間で 5 回の会

議を開催した。第1回会議では、本市のスポーツ施設における適切な施設のあり方について検討をお願いするといった趣旨説明があった。具体的には、競技スポーツ施設のあり方や、生涯スポーツ施設のあり方などについて議論し、結果を市に報告することとなった。第2回会議では、競技スポーツ施設のあり方、インクルーシブな視点を踏まえた生涯スポーツ施設のあり方、施設の利用料金や運営方法についての3点が具体的な検討事項として挙げられ、会議での議論を経て、第5回会議で報告内容が整理された。第2回会議では、建設凍結となっていた新総合体育館も議論の対象になるのかという質問があり、当局からは近い将来と遠い将来の両方の視点で議論してほしいとの答弁があった。また、これに伴い凍結した新総合体育館建設計画の概要についての説明があった。当時は、東洋通信スポーツセンターは廃止、竹平記念体育館は廃止又は譲渡し、新総合体育館へ集約することとなっていたが、財政的な理由から建設は相当先になるとのことであり、検討会議でもそうした認識を持っていた。新総合体育館が建設される遠い将来を見据え、近い将来としては、段階的な対応、いわば次善の策として竹平記念体育館にサブアリーナ併設が望ましいとの考えに至り、報告書に盛りこんだものである。高岡市教育将来構想検討会議の役割はそこで終わったということになるが、今後の意思決定については、当局及び予算等の議決権を持つ議会にあると認識している。

- 検討経緯については、先の意見と同様である。施設の廃止なども含めて検討しており、財政健全化についても頭に入れて考えていた。我々としては、いつまでの将来構想を出せばいいのかとなったときに、現時点で一番適切ではないかということで、竹平記念体育館サブアリーナという結論に落ち着いた。

【令和8年5月8日に市が新たに示したスポーツ施設等の整備方針について】

- 議論が熟していないのに賛成している議員がいると新聞報道で知ったが、いかなものかと思う。8年4月29日に市長から面会の申し出があり、その際にも申し上げたが、竹平記念体育館サブアリーナについては、ここまで立派な設計で出てくるとは想定していなかった。プロスポーツや全国大会、北信越大会といったレベルの大会にはサブアリーナが必須であり、本市には存在しないということでサブアリーナという議論をしていた。ただ、金額は20億円程度、面積も1,000㎡程度を見込んでいた。バレーボールコートは3面となっているが、富山市総合体育館のサブアリーナは2面であり、その規模で問題なかった。設計内容は8年3月30日に当局から説明を受けたが、これは竹平記念体育館のメインアリーナが耐用年数を迎えた後も、このサブアリーナを現在のメインアリーナと同じように活用することを想定していると感じた。バドミントンにはSJリーグがあるが、3年後にプロスポーツ化される予定である。日本バドミントン協会の関係者からは、プロ化された後はサブアリーナが必須であり、現在、サブアリーナなしで大会を行っているのは全国で本市だけだと聞いている。現在の竹平記念体育館では、アリーナの3分の2で試合をし、残りの3分の1で試合のアップを行っているが、本市以外の会場では、メインアリーナで試合、サブアリーナで試合のアップと使い分けられている。高岡はバドミントンの聖地であり、プロ化されようがされまいが、支えていくのが行政と

して当然の責務だと思う。ただ、最近になって、竹平記念体育館サブアリーナの建設は反対になってきている。それは、バドミントンがプロ化された際の誘致の条件の一つとして、3,000 席以上の観客席が必要であるが、竹平記念体育館の観客席は2,000 席である。この際、サブアリーナが併設され、観客席 3,000 席以上を有した新総合体育館の建設を決断してほしい。現在示している案では、5 年後の建設となっているが、2 年や3 年遅らせてでもサブアリーナを同時に建設することを切に希望する。県内では KUROBE アクアフェアリーグが活躍しているが、7 年度は年間 44 試合行われた。そのうちの 22 試合がホームゲームであり、黒部市の総合体育センターで 16 試合、魚津市のありそドームで4 試合、砺波市の県西部体育センターで2 試合行われている。KUROBE アクアフェアリーグの関係者からは、県内第2の都市であり、呉西の雄、中心都市である高岡で試合を行いたいと聞いている。バレーボールは SV リーグであり、プロスポーツと言われているが、私からするとアマチュアスポーツである。KUROBE アクアフェアリーグの選手は、それぞれ民間企業の正社員である。午前中に仕事をし、午後から集まるといったように、いわばクラブチームのようなものである。それが8 年7 月からプロスポーツになる。民間企業を退職して KUROBE アクアフェアリーグに就職し、そこから給料をもらう。この SV リーグも観客席は 3,000 席以上必要であり、竹平記念体育館は条件を満たさない。竹平記念体育館サブアリーナの建設は当時賛成していたが、最近になってこのような状況が見えてきたため、スポーツコアに条件を満たす新総合体育館を建設してほしい。

- 高岡市教育将来構想検討会議として報告書を提出してから時間が経過している。この間に財政状況の変化があったと当局から説明を受けた。これを受けて新たな方針が打ち出されたもので、その内容については理解する。今回の方針は、これまで凍結されていた新総合体育館について、供用開始時期も明示した上で、早期に建設する意向が示されたものであり、いわば政策判断の変更があったものと認識している。仮に、今回の方針にあるような整備時期が明示された新総合体育館の建設計画があれば、前提条件が異なることから、高岡市教育将来構想検討会議の報告内容も異なるものになっていたと思う。もとより新総合体育館の建設は、市民誰もが願っていたことであり、財政的な制約によって凍結となり、遠い将来の話になっていたものが、様々な変化もあって、近い将来に実現しようということである。今回の方針について、議会や関係者の方々に丁寧な説明が行われ、協力して前向きな議論が進められることを期待する。高岡市教育将来構想検討会議では、相当先に新総合体育館を整備するのであれば、その内容を十分見直して建設に進むべきという意見もあったため、新総合体育館が市民やスポーツ関係者の方々にとって最適な体育館として整備されることを望む。
- 先ほど意見に出たとおり、状況は日々変わっている。当局から多少の説明は受けたが、想定していた竹平記念体育館サブアリーナは、今回の設計結果にあるようなメインアリーナに準ずる規模ではなかったと感じている。高岡市教育将来構想検討会議での審議は終わっているが、その後については、議会や当局でもう一度しっかりと検討し、時間がない中であるが円滑に進めてほしい。

〈 委員から、次のとおり質疑等があった。 〉

(以下、質疑・質問内容は ○ 、答弁内容は △ で表示)

【高岡市教育将来構想検討会議での体育館施設のあり方に関する検討経緯及び内容等並びに令和8年5月8日に市が新たに示したスポーツ施設等の整備方針について】

○ 市長記者会見の前に、当時の高岡市教育将来構想検討会議の委員の方に内容を事前に説明し、おおむね賛同ということで理解を得たと当局から報告を受けた。しかしながら、当時の委員の方々や、武道関係者の方々と話をすると、当局の報告とは齟齬があると感じている。同志会としては、議論がまだされていないということで発表の延期を要望したが、当局には聞き入れられなかった。こうした経緯もあって改めて質問をしたい。高岡市教育将来構想検討会議として、当局からどのような検討を依頼されたのか。また、その中でどのような課題について議論したのか。

△ 竹平記念体育館サブアリーナだけではなく、小学校の体育館に至るまで全体的な話をしていた。

△ 冒頭申し上げたように、第2回会議では、競技スポーツ施設のあり方、インクルーシブな視点を踏まえた生涯スポーツ施設のあり方、施設の利用料金や運営方法についての3点が検討事項と示された。

○ 市長記者会見では、施設の場所ということに説明が終始しており、高岡市教育将来構想検討会議で議論されていた20年後のスポーツ環境という視点が全く見えなかった。高岡市教育将来構想検討会議では、単に体育館を建設するか否かではなく、20年後のスポーツ環境全体について議論をしていたという認識でよいのか。

△ その認識で問題ない。スポーツについては、「する」「みる」「ささえる」という3本の柱でできていると考えており、先ほどプロスポーツの話をしたが、これは「みる」に関することである。「する」については、市民の方々が日々の健康や活力の増進のためにスポーツや運動を行うというものである。「する」だけであれば、市長が示されたメインアリーナの体育館だけで十分だと思う。しかしながら、トップアスリートの競技を生で観戦することも大事である。特に、子どもたちが感動をもらい、夢を抱き、選手に憧れることが大事である。県内でも八村塁氏や登坂絵莉氏といった様々な一流選手が輩出されている。富山市や黒部市に体育館があるので、そちらに行ってほしいという高岡でよいのか。当局からの説明では、費用対効果という言葉は何回も聞いた。バレーボールの試合は年間で何回あるのかということだと思う。だが、バドミントンは絶対に離してはならない。先ほど申し上げたような機会を奪い取る施設を建設してしまったら、サブアリーナがない体育館をスポーツコアに建設したら、もう終わりになってしまう。バドミントンのSJリーグはYKKAPアリーナでやろうと日本バドミントン協会が決断したら、もう高岡には戻ってこない。プロ化される3年後までに体育館を整備することはできないと思う。竹平記念体育館にサブアリーナはないが、行政と市民が協力してお願いするしかない。

○ 高岡市教育将来構想検討会議では、人口減少、財政的な制約、学校の再編統合、生涯スポーツ、競技スポーツ、地域コミュニティ、障害者スポーツといった議論が

あったと認識しているが、こうした総合的な観点から検討を行ったという認識でよいのか。

△ その認識で問題ない。

○ 高岡市教育将来構想検討会議が重視していたのは、個別施設の建設計画ではなく、本市全体のスポーツ環境の将来像を描くことだという認識でよいのか。

△ 市民全員がスポーツをすることを好んでいるとは限らない。その中であって、子どもたちが観ることを楽しむ、あるいは喜びを感じてもらうことが大事である。市民の方々にプロスポーツの場を提供したい、そうなればよいという考えで審議を行っていた。

○ 新たな方針では、武道機能についても示されたが、高岡市教育将来構想検討会議において、古府小学校跡地が武道施設の候補地という議論は行われていたのか。

△ 議論はなかった。

○ バドミントン等のプロスポーツについて、絶対に観客席が 3,000 席以上ないと誘致できないのか。

△ おそらくだが、バドミントンについては 3,000 席なくても大丈夫ではないかと思う。現在、それだけの観客が入っていない。プロ化されたからといって一気に 4,000 人、5,000 人来るとは考えにくい。バレーボールについては、先ほど 3,000 席以上と申し上げたが、規定では 5,000 席である。トッププレーヤーが出場すれば 5,000 人以上来るとは思うが、KUROBE アクアフェアリーズの試合を見ても、ホームゲームで最大 1,700 人程度である。協会の目指すものと実態とは少しずれがあるが、協会としてはトッププレーヤーが出場したときの 5,000 人以上を目指す。ただ、関係者からは 3,000 席でも十分とは言えないが、大丈夫だと聞いている。実際に黒部市の総合体育センターも 5,000 席はない。これらを踏まえると、観客数が絶対的に必要とは思わないと思う。先ほど SJ リーグがプロ化された際に竹平記念体育館でお願いするしかないと申し上げたのは、こうしたことも踏まえてのものである。

○ 竹平記念体育館サブアリーナ建設は、新総合体育館構想と対立するものだったのか。それとも新総合体育館までの機能補完として議論されたのか、改めて確認したい。

△ 新総合体育館までの補完として考えられていた。

○ サブアリーナが今後の体育館には必須ということは分かったが、高岡市教育将来構想検討会議で考えていた段階的整備というのはどのような考え方だったのか。

△ 財政的に難しいため、竹平記念体育館にサブアリーナを建設し、20 年間我慢する。20 年後にサブアリーナ付きの新総合体育館を建設するというものである。

○ 20 年後の体育館施設のあり方について、1 年近く時間をかけて検討していただいたことについて感謝している。この一定の期間をかけて出した答えを無駄にはしたくない。また、会議の中では大事な意見もたくさん出ていたと聞いている。今の新しい方針については、議論不足である。高岡市教育将来構想検討会議で行われた議論が市民の声ではないとなれば、一体どれが市民の声なのかと思う。当時は教育、経済、防災の観点からも議論がされたと思うが、スポーツ関係者としては、どのような体育館施設のあり方が求められると考えるのか。

- △ 「する」については、市民が健康で暮らす上で日々のスポーツ活動、その環境をどのように良いものにしていくかということである。「みる」については、プロスポーツをはじめとするトップアスリートの生の真剣勝負を見て、感動や夢が生まれ、子どもたちをはじめとする多くの方の健康や心身づくりに役立つことであると考えている。「ささえる」については、例えば、トナミ運輸のバドミントンがプロになるとなったときに、本市を代表し、世界でも通用するチームについて、行政と市民が一体となって支えていかずしてどうするのかということである。行政にはソフト、ハードの両面から支えてほしい。市民には試合会場に行って応援する、観客席を埋める、売り上げに貢献するといった形で支えてほしい。また、力のある企業にはスポンサーとして協賛金を支払い、財政面から支えてほしい。少し視点は変わるが、中学校の地域部活動について近い将来なくなるという話がある。地域に代わり、競技団体に支える。これも「ささえる」の一つであると思う。
- 竹平記念体育館サブアリーナの白紙撤回の理由の一つに二重投資とあるが、高岡市教育将来構想検討会議において、こうした議論はあったのか。
- △ 二重投資という言葉は一度も出ていない。
- 検討過程で二重投資という話が出ていた場合、高岡市教育将来構想検討会議の方向性が変わった可能性はあると思うか。
- △ 可能性はないと思う。当時、横田地区の防災という観点も含めて当局では議論していた。横田地区には避難所機能が少ないということで、そうした活用も行うという話だった。
- 武道機能に関して古府小学校跡地の話はなかったとのことだが、県営高岡武道館廃止後の本市の武道環境についての議論もなかったのか。
- △ 議論はなかった。
- 武道関係者との意見交換やヒアリングもなかったのか。
- △ 知りうる限りではなかった。
- 高岡市教育将来構想検討会議の議論において、プロスポーツの中で特定のスポーツに力を入れていくという方向性は決まっていたのか。
- △ 競技を絞った議論は行っていない。
- 先ほどバドミントンという強い思いを聞いたが、具体的な中身についてはどうだったのか。
- △ 先ほど申し上げたとおり、バドミントンやバレーボール、バスケットボールといった特定の競技名は一切出していない。特に子どもたちには、レベルの高いプロスポーツを見せたい、そのための施設が欲しいという話をしていた。
- △ 当時は、今ある施設をどのように活用し、長く使用していけるのかということを中心に議論を行っていた。
- アリーナを建設するとしても、競技によって規模や必要な設備は異なるが、そのような議論も特になかったという認識でよいか。
- △ 当時は、メインアリーナは竹平記念体育館で十分だと認識しており、あとはサブアリーナが必要だということを議論していた。観客席としては2,000席で問題ないと思っていた。

△ 様々なよもやま話はあったと思うが、特にこれと決めて議論したことはないと思う。

○ 参考人の方々の話を聞く限りでは、スポーツコアに新総合体育館を建設するという方向性自体はおおむね理解を得ているが、体育館の中身が問題になっていると受け止めている。今後、スポーツコアに体育館を建設することになれば、どのような機能が必要と考えられるか。あるいはどのような体育館が望ましいと考えられるか。

△ 平成 29 年度の計画では、当局から体育館の情報が何も入ってこなかった。このため、当時の高岡市スポーツ協会から当局に対し、様々な競技団体の意見を聞く場を設けるよう意見書を提出した。その意見書が通り、当時の課長が中心となり、本庁舎の 8 階に全競技団体を集め、自分たちの意見を全て言った。それを受けてできた設計については、入札不調で結果としては没になってしまった。その設計では、弓道場、相撲場といったものも含まれていたはずである。これは個人的な考えだが、これから建設する新総合体育館には弓道場は不要だと思う。弓道のためにはかなりのスペースが必要であり、これを体育館の中に入れると大変な費用がかかり難いと思う。県の新しい武道館には弓道と相撲の 2 種目の施設は整備されない。これは、呉羽や五福にすでに県の施設があるためである。氷見市のふれあいスポーツセンターの屋上に弓道場を整備したが、矢が駐車場まで飛んでいったという話も聞いたことがある。そうしたこともあり、弓道は不要と考える。柔剣道場については、武道館として別にあるのも、新総合体育館に含めるのもどちらでも構わないと思う。

△ スポーツの専門家ではないため、具体的にどのような機能、施設が望ましいかという考えはない。スポーツ関係者や専門家の意見を十分踏まえて検討を進めてほしい。

△ 次の段階の話であり、発言は控えたい。

△ 次の方に聞いてほしいという意見については、大事だと思う。本日の会議も含めて、日々、環境や競技団体の事情が変化している。こうした情報を得ずして新総合体育館を建設しようというのは論外だと思う。市長と面会した際には、高岡市教育将来構想検討会議の委員 12 名を全員入れ替えても構わないので、もう一度、有識者を集めて会議体を組織し、意見を聞いてはどうかと申し上げた。しかし、市長はその気はないとのことだった。私は今でも必要だと思っている。このままだとサブアリーナのない体育館ができてしまう。

○ サブアリーナがないこと、今後の将来を考えたときに子どもたちが可能性を感じられないような施設はふさわしくないという意見は非常に強く伝わってきた。また、共感する部分も多くある。そういった意味でこれからの議論が大事ではないかと思う。今回の構想について既に賛成を表明していることについての意見もあったが、会派としては、今後建設する体育館の中身についてしっかりと議論を進めていきたい。(意見)

○ 高岡市教育将来構想検討会議では、駐車場台数について議論があったのか。

△ 議論した記憶はない。

△ 私も同様だが、竹平記念体育館に駐車場が足りないというのは考えずしても分か

- っていた。それを承知の上で竹平記念体育館しかないというのが当時の結論である。
- 駐車場については、新たに議論していくべき課題だと認識した。先日、当局から具体的な駐車台数も出ているが、関係者や市民の方々にとって、どのくらいの台数の確保が必要なのかといった議論ができていないのも事実だと思うので、引き続きチェックしていきたい。(意見)
 - △ 竹平記念体育館が市の施設になる前だと思うが、KUROBE アクアフェアリーズの試合を土曜日と日曜日に開催している。その際は企業の社員駐車場を借りるなどしたと思うが、何とかあったという実績がある。大きな大会はそれほど開催頻度が多くないので、企業の協力を得ながら対応していく必要があるとは認識していた。
 - 先ほど参考人の方から、市長と面会された際に広く意見を聞いてほしい旨の話をしたが、市長からは聞くつもりはないと返答されたとの発言があったが、それは間違いないのか。
 - △ 正確には会議体を設けて市民の声を聞いてほしいと伝えた。ただ、市長からは市民の声は選挙で4万何千票かを得票したため、それは市民の声として聞いたといった発言をされた。
 - 選挙は政治家にとって大事な指標だが、議論を進めていくにあたって会議体を設けることは必要である。また、過去の計画時はスポーツ関係者の声を聞いたという話もあったが、非常に大事なことだと思う。市長の発言についてはどう思ったのか。
 - △ 残念だと思った。
 - 市民の声を聞かずして体育館を建設することについて、他の参考人はどう思うか。
 - △ 意見は差し控える。
 - 個人的に屋内競技、屋外競技の役員を務めているが、平成29年度の計画のときは、プレーヤーの方から意見を言ってほしいということで私自身が場を作ってお願ひした経緯がある。利用者目線で整備することが大事であり、2000年富山国体に合わせて整備しようとしていた体育館も当時できていれば、そのようになっていたはずである。改めてお呼びする、あるいは様々な形で協力いただくこともあると思うので、よろしくお願いしたい。(意見)
 - 当時は、新総合体育館が10年以内に建設できないのであれば、サブアリーナを代替機能として求めるという話があったと聞いている。10年以内に新総合体育館が建設できるのであれば、先ほど参考人からあったとおり、前提が変わるため、報告内容も変わっていたのではないかという意見もあった。このような中で、新総合体育館については、最初からサブアリーナ付きという形で考えられていたのか。
 - △ これから建設する体育館でサブアリーナがないものは、体育館として考えられない。10年という数字は記憶にないが、いずれにしろスポーツコアに整備する新総合体育館については、サブアリーナ付きでしか議論はなかったと思う。
 - △ 新総合体育館については、当時入札不調に終わった設計内容について説明を受けただけで、どのような規模で、どのような内容を求めるといった具体的な深い議論はなかったと思う。
 - 市長記者会見の前に、参考人の方々には事前に説明があったのか。
 - △ 8年4月10日に副市長から説明を受けた。

- △ 具体的な日時は覚えていないが、説明を受けた。
- △ 記者会見後に説明があった。ただ会議体として審議は終了しており、全員に説明が必要とは考えていない。
- 高岡市教育将来構想検討会議として長い時間をかけて議論してきたものを市長の言葉で一気に政策転換された。市民の声を1日で覆すことについて、意見はあるか。
- △ 一番大きい理由は財政的な面だと認識している。起債や補助の要件については、国や関係機関から示される時期によって、1日で状況が変わるということもあり得ると思う。今回の件が良いか悪いかは別にして、状況の変化はあり得ることだと思う。
- ベストではないがベターな選択という考えがあったとのことだが、ポジションによって考えも変わる。行政、議員、スポーツ団体、自治会それぞれで異なる意見が出てくる。このような様々な観点をもって、課題を探究して問題解決していくことが必要だと思う。全員が統率的に同じ発言をしなければならないということは本市の発展にとって妨げになると思う。ベストではないが、ベターな選択というのは、議論の中で誰にとっての考えと感じたか。
- △ 行政やスポーツ関係など、全体を含んでの考えと感じた。
- プロスポーツを誘致する中で、土曜日や日曜日に市民が体育館を使用できないという可能性も考えられる。プロスポーツのあり方と市民スポーツのバランスに関してはどのような議論があったのか。
- △ 土曜日や日曜日以外に、市民の利用がないかということとそんなことは全くない。東洋通信スポーツセンターも竹平記念体育館も市民のスポーツ活動で多くの利用があり、予約が取れない状態である。そうした市民活動において、なぜサブアリーナが必要かという、例えば冷房や照明の問題である。地域でビーチボール大会をすることになった場合、竹平記念体育館の3分の1程度のスペースで問題ないが、規模が大きいため、冷房や照明に多額の費用がかかる。サブアリーナであれば規模が小さく費用を抑えられるため、施設の利用料も抑えられる。他市の体育館であれば、メインアリーナよりサブアリーナの方が市民スポーツで使用されている。
- △ 競技スポーツについては竹平記念体育館を使用し、市民の生涯スポーツについては竹平記念体育館も含め、学校体育館の開放も合わせて考えるという議論だったと認識している。
- 「する」「みる」「ささえる」のバランスが重要だと思う。プロスポーツを誘致して子どもたちの夢になるということも大変重要である。その中でスポーツコアに建設する新総合体育館について、「する」「みる」のバランスはどうとすべきか。
- △ プロスポーツの試合は年間何試合だからと、費用対効果で考えるものではない。さらに言うと高岡市にはプライドがないのかということである。本来、新総合体育館は2000年富山国体のときに竣工しているはずだったが、それが26年間先送りされている。それにもかかわらず片手間のものを作ろうという議論をしており、とんでもないことだと認識している。財政状況があるのは分かるが、まず本件が第1番目にあるべきだろうと思う。橘市長時代に行財政改革市民懇話会の委員をしており、会議の場で体育館はどうするのか尋ねたが、体育館は必ずつくと力強く言ってい

た。それが今でもできていない。こうした状況をどう感じているのか。議員の方々にもよく分かってほしい。由利本荘市は人口6万8千人程度だが、大変立派なアリーナができています。国の防災・安全社会資本整備交付金を活用してできたと聞いているが、行政はこうした財源を探そうというアクションをすべきである。先般 YKKAP アリーナのスポンサーについての報道もあったが、民間活用については考えないのか。ネーミングライツだけでなく、市民、企業を巻き込んだ動きはないのか。有識者の会議をつくれば、そうした意見も出てくるのではないかと。やって駄目ならしょうがない。気概をもって取り組んでほしい。

- 我が会派では、以前から竹平記念体育館サブアリーナについては反対だった。本日の意見を聞いて、「する」「みる」「ささえる」という視点を知った。本日の意見を参考に議論を進めていきたい。(意見)
- 本日は熱い思いを聞けてよかった。3,000人以上の観客が入る体育館が必要ということで、スポーツコアにサブアリーナ付きの新総合体育館を建設してほしいという思いも聞いた。確認になるが、竹平記念体育館サブアリーナについては、こだわらないという認識でよいか。
- △ その認識で問題ない。当時は竹平記念体育館サブアリーナという一点で進めていたが、最近は変わった。
- 市長からは広く市民の声を聞かないという趣旨の発言もあったとのことだが、高岡市教育将来構想検討会議の中で、本市のスポーツ推進に関する取組について市民アンケートをとっていたと認識している。この中では、地域で身近に利用できるスポーツ施設の整備を望む声が約60%と最も高く、次いで広く市民が参加できる各種スポーツ教室大会等の開催が35%だった。この市民アンケートの意見等について、どのような議論があったのか。
- △ 市民の利用を根底に施設のあり方を考えていたと認識している。市民にとって身近な施設として健康づくりなどに活用していただくという観点は、議論の中に必ず入っていた。
- ベストではないがベターという考えについて、お金さえあればベストな方法はとれる。被災地の復旧・復興や学校の再編統合など、大きなお金が必要だという状況において、竹平記念体育館があと18年使用できるというところも見据え、18年後に向けてどのようなベストな方法があるかということを議論してきたと認識している。ベストが一番だが、遠い先にあるベストに向かうために、近くでできることを最優先で行って、ベターからベストにしていくものだと思う。その中で、学校の再編統合により、現在の場所に高岡西部中学校がなくなるということも含めて、竹平記念体育館のサブアリーナ構想があったと思うが、防災に関してはどのような議論があったのか。
- △ 多くの時間をかけたわけではなく、横田地区の防災拠点としての機能も持ち合わせたいということだったと思う。
- △ 学校体育館について、防災上の機能もあるといった意見は申し上げた。高岡市教育将来構想検討会議の議論としては体育施設が一義的なものであり、防災に関して深い議論はなかったと思う。

- 子どもや孫の世代など、今後の本市を支えていく世代のことも考えなくてはならない。市民の声や様々な環境の方々から専門的な知識を聞くということは非常に大事であると感じた。(意見)

〔自由討議〕

- 。令和8年5月22日の議員協議会における発言について

委員 A 議員協議会において、市が新たに示したスポーツ施設等の整備方針について、議論が煮詰まっていないのに賛成を表明した会派があり、そのことについて参考人から苦言があった。本日、同会派所属の議員から駐車場に関する質問、新総合体育館におけるサブアリーナに関する質問もあったが、そうした疑問がある中で賛成を表明する根拠はどこにあるのか。

委員 B 議員協議会では、おおむね賛成といった発言だったと思う。全てに賛成したわけではないと思う。

委員 A 参考人に改めて確認したが、高岡市教育将来構想検討会議では、段階的な整備として、まずは竹平記念体育館サブアリーナを整備し、その後に新総合体育館を整備するとのことだった。今の新しい市の方針は、まずは新総合体育館を整備し、サブアリーナは整備しないということである。おおむね賛成とのことだが、どこまで賛成しているのか。議員協議会での発言は非常に重い。会派として説明すべきでは。

委員 C おおむねという見解の定義をこの場で議論するつもりはない。今後、定例会などの場で会派としての見解は申し上げる。本日、参考人からいただいた意見を踏まえ、どのような提案がふさわしいか、会派としても議論をしていきたい。スポーツコアに建設するという方針については、おおむね賛成をしたということで、細かい中身については様々な場で議論していくべきであると思う。

委員 A 議員協議会での発言が翌日の新聞で報道されている。参考人の一人はそれを見て懸念を示したとのことである。元々の方針と今の新しい方針は全く異なっており、現段階で賛成という意見が出てくるということは、議員として非常に重い。十分留意してほしい。

2 その他

〈 委員から、質疑等はなかった。 〉

〈 以上で委員会を閉じた。 〉